

福音派の行方 識者はこう見る

10年後、高齢化で影響低下も

国際基督教大学教授 森本あんり氏

——福音派とは何でしょうか。

「福音派は実態としては宗教というより社会集団として機能している。信仰の内容や教義とは別に、まずは



『同性婚は嫌だ』という共通の感情があって、それを聖書で後付けするという発想だ。その価値観は、伝統的に理想とされる白人中心の家庭的な生き方の実現だ。人工妊娠中絶の権利を認めた1973年の『ロー対ウェイド事件』以来、福音派はリベラルに対して負けを感じ続けてきた。だから福音派にとって、トランプ氏は『自分の世界を正当化してくれる人』だ」

——宗教から見た米国の性質は。

「もともと米国は宗教的国家だ。植民地時代だった18世紀以降、人々が急に信仰心を深める信仰復興運動がたびたび起きた。移民などで人口が急増し、精神的な支えが必要とされ

たことが1つの要因だろう。このとき神の下での強い平等意識を足がかりに、インテリ層や権威に反発する精神性が生まれた。これが反知性主義だ。福音派の多くは内陸部の田舎に住む。農業などに携わり移動の自由があまりない人々にとっては、西海岸や東海岸に住むインテリや大金持ちは反発の対象だ」

「キリスト教が米国で土着化するなかで、成功して富を得た者は正しい、という世俗の論理が広まったことも重要だ。西部開拓や高度成長時代のように前進しているうちはいいが、うまくいかなくなった時に自分を納得させる論理がない。それがラストベルトやバイブルベルトでのトランプ氏支持につながっている」

——今後も影響力は続きますか。

「福音派も高齢化が進み、バイブルベルトでも若者はリベラル側に傾きがち。今後数年はこの流れが続くとしても、10年後には共和党も福音派に頼れなくなるのではないかと」